

地域医療学

担当指導医師・メディカルスタッフ

●地域医療実習施設の指導医・メディカルスタッフ

●本学

教授：伊藤 智範

特任教授：田島 克巳（医学教育学講座）

教授：佐藤 洋一（医学教育学講座）

特任講師：相澤 純（医学教育学講座）

基本方針：

地域に存在する医療施設を体験することにより、地域医療の在り方と現状および課題、地域医療に貢献できる医師に必要な能力について理解する。地域医療に貢献できる医療チームの一員として行動できる。

総合診療・家庭医療の現場を体験することにより、プライマリ・ケアの理念と地域・患者に対する医師の役割を理解し、全人的医療を行うために必要な基本的臨床能力・思考法を修得できる。

実習内容：

1. 各医療圏（二次医療圏）の概要を、実習開始前にあらかじめ学習しておく。そこで、地域の問題点を把握しておく。地域全体の医療機関の概略、産業構造、高齢化率、生活上の問題点、地理的、ならびに受診や救急搬送に関連する交通の問題点などを調べる。
2. 各医療圏へ出向いて、6週間滞在する。その医療圏内で、中核病院、診療所や介護施設などを回り、地域の中で患者さんが急性期病院へ入院してから、退院・通院・リハビリテーションをするまでの全体の流れを知る。また、地域包括支援センター、保健所などの行政組織がどのように医療にかかわっているかを把握する。
3. 診療参加型臨床実習に準じて、各医療機関で本学医行為基準の範囲で、医療面接、処置などを行う。
4. 地域医療実習で、医療機関以外の施設には、どのような患者さんが暮らしているかを把握する。
5. 多職種のそれぞれの立場を知り、専門家として尊重しながら、医療チームに参加する。自らほかの職種の専門領域を学び、多職種によるカンファレンスに参加して、担当する患者さんに関して、意見を述べる。
6. 症例発表などの機会があれば、積極的に行う。

実施期間

第1クール：第5学年 平成30年1月15日から2月23日（6週間）

その他：

この科目は、医療人として社会に貢献する前に行うインターンシップであるとはいえ、実際の医療機関における研修であり、社会人としての行動規範が要求される。指導医、

メディカルスタッフ、患者と家族の皆様および地方の皆様、全ての方に対して謙虚に教えを請う姿勢で臨むこと。自己本位の勝手気ままな行動は厳に慎み、決められた時間を厳守し、身だしなみと言動に気をつけなければならない。自分なりに努力したと思っても、叱責される場面もあるかもしれない。しかしそれは、社会人として不適切な行動は学生のうちから矯正しなければならないということからなされる指導であると心得、自己の行動の改善に役立てられたい。

実習前に各医療圏でリストアップすべき施設

医療機関、地域包括支援センター、保健所、市町村保健センター、老人福祉施設など

実習に使用する機械・器具と使用目的

内科学書（朝倉書店、中山書店、ハリソン）

公衆衛生学に関する教科書・参考書（例えばQB 公衆衛生）

聴診器 診療に用いる

名札（本学のもの）

白衣 診療に用いる

ノートパソコン